

総合的な学習の時間・社会科（第5学年）

テーマ【 考えよう！始めよう！わたしたちにできること 】

河内長野市立高向小学校

《学習のねらい》

- ・環境破壊の実態を知り、原因を調べることで、自分たちにできることを考え、生活に活かす。
- ・総合的な学習や教科の学習と児童会活動を関連づけて取り組むことで、環境問題に関心を持つ。

《取組みについて》

① 地球温暖化と新エネルギー（太陽光発電）

朝日新聞社「地球教室」やシャープ（株）「小学校環境教育」の出前授業プログラムを活用しました。お話と「空気と二酸化炭素の温まり方の違い」や「人力による発電」等の実験により、環境に興味を持ちました。



② 間伐体験

校区内にある森林で間伐体験をすることにより、森林資源の働きを理解し、河内長野市の森林を守るためにはどうすればよいか、環境保全の重要性について身近なこととして考えました。



③ 身近な自然から考えよう ～自然や生き物と、私たち人間とのかかわり～

朝日新聞「地球教室」の冊子も活用しながら、「自分たちでしていることがありますか？」という投げかけから、身近な自然の今と昔の違いから、自分が考えていきたい学習課題を設定し、図書やインターネット等で調べました。そして、自分たちができることを具体的にまとめていき、環境学習発表会で「環境ワークショップ」を実施しました。上記の「①地球温暖化と新エネルギー」と「②間伐体験」での学習をもとにして、環境保全について、児童一人ひとりが更に深めたい学習課題を設定しました。図書やインターネット等で調べたことをまとめ、発表しました。

④ ペットボトルのキャップ回収

本校では従来より児童会活動として活動を行っていますが、5年生が学習を進めるにつれ、活動の意義や環境とのつながりを再認識し、これまで以上に積極的に取組みに関わっています。

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」・シャープ株式会社「小学校環境教育」

《成果》

- 『地球温暖化と新エネルギー（太陽光発電）』の授業は、DVDの映像視聴や実験を交えてのもので、児童は興味深く関心を持って話を聞き、温暖化の実態や新エネルギーへの取組みも理解しやすく、このあとの調べ学習が主体的に取り組めた。
- 『身近な自然から考えよう ～自然や生き物と、私たち人間とのかかわり～』の学習では、自分の身近なところで環境が破壊され、生態系の変化が起こっていることを実感することで、自分たちができることを具体的に考えようとしていた。
- 学習を進める上で、本校で従来より行われている『ペットボトルのキャップ回収』はもとより、それ以外の環境活動についても、自分たちにできることは何かを考え実践する意識が芽生えた。